

## 第2回 自律移動支援プロジェクト評価委員会 議事概要

### 1. 概要

日時： 平成21年2月10日（火） 15：20～16：50

場所： 神戸市役所1号館14階 特別会議室

出席者： 岡部 篤行 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 教授  
福島 智 東京大学先端科学技術研究センター バリアフリー分野 教授  
竹中 ナミ 社会福祉法人プロップ・ステーション 理事長  
長谷川貞夫 日本点字図書館 評議員  
長谷川 洋 日本聴覚障害者コンピュータ協会 顧問  
(事務局) 政策統括官  
政策統括官付 参事官  
政策統括官付参事官付 政策企画官  
国土技術政策総合研究所長  
国土技術政策総合研究所道路研究部 道路空間高度化研究室長

### 2. 主な意見

- このプロジェクトの意義・重要性については、どなたも疑う余地がないと考えていると思う。この5年間でずいぶん具体的な成果が上がったのではないかとと思われる。
- 普及に当たり、全国各地でさまざまな方式でプロジェクトが行われているが、それぞれさまざまな仕組みがあり、今後はどうやって統一性を図ってまとめていくかが重要であると考えている。これと関連して、普及に当たっては、情報端末は特殊なものではなく、一般的に使われている携帯電話等を利用する方向で進むのが望ましいのではないかと思う。
- 持続について3つの課題がある。第1に費用・経費の問題、第2にユーザーの意見を引き続きどうフィードバックしていくかという問題、第3に個人情報等の取扱いを含めたセキュリティーについての管理運営の仕方をどうするかということが重要である。その中で最も重要なのは、費用の問題である。全国に位置特定インフラを整備するには何千億円も必要となる。情報提供を障害者だけに限らず、みんなが使えるもの、みんなが知りたいようなものに膨らませるようにし、広告料や携帯電話の料金に課金するシステム等を構築する必要がある。
- 持続の問題は、技術と制度とコストの問題が絡んでいて、国家としてのインフラにかかわる問題であることから、今後しっかりと議論していく必要がある。

- ひとりの人間が移動するという事は、個人的な生活においても、例えば学校への通学、職場生活においても、必須なことであり、そういう意味でインフラの整備は非常に重要である。そのための基盤が整備されることは非常に心強い。
- 街を歩いていると人による親切をありがたく感じる。視覚障害者、高齢者等だれでも安全に自由に歩けることができるようになることを望んでいる。そのためには、ユビキタスコンピューティングの情報社会基盤を整備するとともに、「人の心の社会基盤」が大事である。
- 骨伝導機能は耳をふさがなくてよいので、システムの音声と外界の音の両方を聞くことができ視覚障害者には良い機能である。
- バイブレーションは聴覚障害者に対しても、視覚障害者に対しても有効である。
- この5年間で携帯電話が国民すべての人に対して必要な日常の道具として、普及するという事は、実験が始まった5年前には予想できなかった事とはいえ、このプロジェクトと携帯電話が最初から絡み合っていてやっていたら、もっと成果が上がったのではと思っている。
- 技術が人に沿って拡大し、その技術がその人の力を拡大して、社会に貢献、社会を活性化することができるという可能性がみえたという意味で、この5年間は大きな成果があったのではないかとと思っている。
- 国土交通省だけではなくて、他の省庁と連携するとか、専門家の意見を取り入れたりしてビジネスモデルを構築することが必要。ここまでやってきて、障害者だけではなく外国人や高齢者について役に立つものになりつつあるので、継続できる形をしっかりと検討してほしい。
- 今後、自律移動支援システムの費用便益を分析するに当たっては、受益者を障害者のみならず、高齢者、健常者、外国人への利便性の向上等技術の波及効果についても考慮するとともに、移動支援システムだけではなく、他の用途・産業への活用可能性についても検討するなど、システムを導入することによる効果を幅広く把握すべきである。
- 自律移動支援システムで使用する場所情報コードの仕様検討に当たっては、国土交通省において既に使用しているコード体系との整合性を図ることにより、位置特定インフラが様々な用途に利活用できるよう検討すべきである。

以 上